

(別添)

# 健和会大手町病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年 9月 策定

**【健和会大手町病院の基本情報】**

医療機関名：健和会大手町病院

開設主体：公益財団法人 健和会

所在地：福岡県北九州市小倉北区大手町15番1号

許可病床数：499床

（病床の種別）一般病床

（病床機能別）高度急性期、急性期、回復期、慢性期

稼働病床数：499床

（病床の種別）一般病床

（病床機能別）高度急性期、急性期、回復期、慢性期

診療科目：内科・小児科・精神科・神経内科・外科・心臓血管外科・整形外科・形成外科・脳神経外科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・泌尿器科・放射線科・麻酔科・リハビリテーション科・病理診断科・救急科・感染症内科・消化器外科

職員数：2017年4月現在

- ・ 医師94.1名（常勤換算数）                      【内訳】 常勤88名、非常勤6.1名（常勤換算）
- ・ 看護職員450.3名（常勤換算数）              常勤436名、非常勤14.3名（常勤換算）  
（保健師、助産師、看護師、准看護師）
- ・ 専門職183.3名（常勤換算数）                  常勤182名、非常勤1.3名（常勤換算）  
（薬剤師、臨床工学技士、管理栄養士、調理師、放射線技師、検査技師、リハビリ、MSW、設備技師）
- ・ 事務職員88.6名（常勤換算数）                  常勤65名、非常勤23.6名（常勤換算）
- ・ その他29.8名（常勤換算数）                  常勤11名、非常勤18.8名（常勤換算）  
（薬剤助手、看護助手、調理員、リハ助手）

## 【1. 現状と課題】

### ① 構想区域の現状（北九州区域）

- ・ 地域の人口及び高齢化の推移  
総人口は既に減少局面、65歳以上人口は2020年がピーク、75歳以上は2030年がピーク
- ・ 地域の医療需要の推移  
人口410万人対一般・療養病床数および医師数は全国平均を上回る
- ・ 4機能ごとの医療提供体制の特徴  
高度医療機関が集積し、高度急性期、急性期については広域的に医療提供を支える役割を果たしつつ、高齢化の進展に伴い増加する慢性期・在宅医療等に適切に対応する必要がある
- ・ 地域の医療需給の特徴（4機能ごと／疾患ごとの地域内での完結率）  
自己完結率は救急97.5%、くも膜下出血97.5%、急性心筋梗塞100%、悪性腫瘍96.5%、小児入院体制97.8%、周辺地域からも患者が流入

### ② 構想区域の課題

- ・ 回復期病床が不足、急性期または慢性期病床からの機能転換により確保を図る
- ・ 在宅医療の提供体制の構築
- ・ 医療機関間の連携強化など質の向上
- ・ 認知症高齢者について、関係者、関係機関の連携

### ③ 自施設の現状

#### (1) 病院の理念

だれもが安心できる良い医療と福祉を、患者さん、地域の皆さんとともに力を合わせて実現します。その為に、私たちは、北九州地域の医療機関をはじめとするあらゆる機関・団体との連携を強化し、地域の医療・福祉のネットワーク作りに貢献します。

#### (2) 基本方針

1. 医療の専門集団として、常に自己研鑽し医療水準の向上に努めます。
2. 患者さん、利用者さんの権利を守り尊重する医療・福祉を追求します。
3. 地域医療支援病院として、救急医療など急性期の医療要求に応えます。
4. 無差別平等の医療・福祉の実現に向けて制度改善など広範な取り組みをすすめます。
5. 病院は「地域の財産」であることを自覚し健全経営に努めます。

#### (3) 診療実績

- |           |                       |                   |
|-----------|-----------------------|-------------------|
| 1. 入院基本料  | 一般病棟入院基本料、障害者施設等入院基本料 |                   |
| 2. 平均在院日数 | 22.4日 (全病棟)           | 17.5日 (回復期、慢性期除く) |
| 3. 病床稼働率  | 93.4% (全病棟)           | 91.3% (回復期、慢性期除く) |
| 4. 病床利用率  | 89.4% (全病棟)           | 86.8% (回復期、慢性期除く) |

#### (4) 職員数

- |                       |  |
|-----------------------|--|
| 1. 医師94.1名 (常勤換算数)    | 【内訳】 常勤88名、非常勤6.1名 (常勤換算)  |
| 2. 看護職員450.3名 (常勤換算数) | 常勤436名、非常勤14.3名 (常勤換算)<br>(保健師、助産師、看護師、准看護師)                             |
| 3. 専門職 183.3名 (常勤換算数) | 常勤182名、非常勤1.3名 (常勤換算)<br>(薬剤師、臨床工学技士、管理栄養士、調理師、放射線技師、検査技師、リハビリ、MSW、設備技師) |
| 4. 事務職員88.6名 (常勤換算数)  | 常勤65名、非常勤23.6名 (常勤換算)  |
| 5. その他29.8名 (常勤換算数)   | 常勤11名、非常勤18.8名 (常勤換算)<br>(薬剤助手、看護助手、調理員、リハ助手)                            |

#### (5) 特徴

1. 4機能のうち主に高度急性期・急性期機能を担い、「24時間365日断わらない救急」をモットーに、北九州市内救急車出動の13%以上を受け入れている  
(※別添資料①)
2. 救急医療機能体制が充実している。日本救急医学会救急指導医2名、日本救急医学会救急専門医4名、救急医4名を擁し、さらに救急科以外にも、救急医学会救急専門医2名が在籍し、院内各診療科からの救急への支援体制を構築している。北九州市で唯一の「日本救急医学会指導医施設」として救急医の研修・育成をおこなっている。
3. 「かかりつけ医」との連携を重視し、総合診療科と各科専門医（脳神経外科、整形外科、感染症内科等）による専門外来、救急患者受入れ、医療機器等の共同利用など地域医療支援病院としての機能を担っている
4. 公益財団法人の病院として社会福祉法等の規定にもとづき、経済的な理由によって医療費の支払いが困難な方が必要な医療を受けられるように、医療費の減免（無料低額診療事業）をおこなっている

#### (6) 政策医療

1. 5 疾病（がん、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）のすべての疾患に対応した医療を担う総合病院としての診療科を構成している
2. 5 事業（救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療）のうち救急・災害医療を中心とした医療及び周産期医療。小児科医療を担う診療提供体制を確立している

#### (7) 他機関との連携

1. かかりつけ医、診療所、病院等との連携を強化し、地域完結型の医療体制の構築している
2. 精神科疾患を抱える当院受診患者については、地域の精神科病院との連携を基本に対応している
3. 医療従事者の育成、高度医療機器の共同利用、開放病棟の活用など地域の医療機関を支援する、地域医療支援病院としての役割を果たしている

#### <資料>

	2016年度
紹介患者数	7,565
介護施設協力医療機関契約数	74
在宅支援診療所からの紹介延件数	2,060
精神科からの延紹介件数	485
老健からの紹介延件数	1,337
特養からの延紹介件数	916
有料老人ホームからの延紹介件数	261
グループホーム、サ高住等からの延紹介件数	160
地域医療支援病院要件にもとづく紹介率	86.0%
〃	逆紹介率
	106.1%
健和会登録医師の会会員数	244

#### ④ 自施設の課題

1. 24時間・365日、迅速かつ高度な医療の提供を追求しており、高齢化の進展により施設や在宅医療を支える病院としての役割の発揮が求められる。そのために、高齢者施設や在宅療養支援診療所等とのさらなる連携強化が必要
2. 疾患別では外傷が最も多く次いで呼吸器疾患、循環器疾患となっている。これらの救急・急性期疾患と併せて、精神科疾患や認知症などの病態を抱える患者が多いのが当院の特徴であり、精神科病院との密なる連携は引き続き課題

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- 1) 当院は開院以後、救急医療を主軸として急性期医療を展開してきた。一貫して「断らない救急」を実践している。年間救急車搬入は約6500台と、北九州市においては最多である。この強みを生かし、高度救急医療の実践と人材育成を北九州地区で担っていく
- 2) 大規模災害時に即応できる体制を整備し、災害拠点病院としての役割を果たす
- 3) 地域の在宅医療等をささえる医療機関としての役割を果たす
- 4) 経済的困難を抱える患者、他の医療機関が受入れ困難な患者など、最後のよりどころとなる病院としての役割を果たす

② 今後持つべき病床機能

- 1) 高度急性期・急性期機能をさらに強化しながら、回復期、慢性期機能も備えたケアミックス病院として、医療サービスを提供する。
- 2) 2021年開院で病院の立替えを予定している。新病院では救急機能を一層強化し、より効率的な救急医療をめざす

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

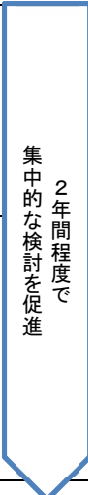
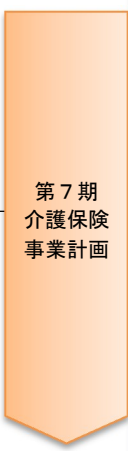
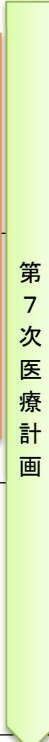
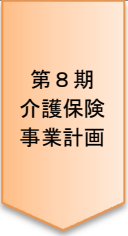
<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	68	→	68
急性期	323		281
回復期	54		50
慢性期	54		50
(合計)	499		449

<方針及び整備計画>

- ・ 病床機能の変更理由  
高度急性期・急性期機能の強化
- ・ 改築・新築の要否  
既存施設の老朽化による新築
- ・ 新築計画  
2019年9月着工予定 2021年9月竣工予定 2021年11月新病院オープン予定  
50床減少予定

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	○2021年度新病院竣工に向けた、病床のあり方について院内協議	○10月新病院建設「基本計画」の確認	
2018年度	○地域医療構想調整会議における合意形成に向け検討	○地域医療構想調整会議において自施設の在り方に関する合意を得る ○7月基本設計の確認	
2019～2020年度		○2019年9月新病院建設工事着工	 
2021～2023年度		○2021年秋をめどに新病院オープン ・新病院にて新病床数で稼働	

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：急性期病床85% 地域包括ケア病床90% 障害者病床98%
- ・ 手術室稼働率：50%
- ・ 紹介率：85%以上
- ・ 逆紹介率：110%以上

経営に関する項目\*

- ・ 人件費率：57.8%
- ・ 業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：0.8%

その他：

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

10/3に北九州市医師会主催で「第1回病院交流会」が開催され、今後市内の病院間連携を促進し、地域医療構想の実現に向けた意見交換の機会を設けていくことが報告されました。意義ある提案であると受け止めました。

地域医療構想の達成に向けて、2004年～2005年に開催されていた「北九州地域医療体制あり方専門委員会」のような機構を作るなど、地域医療構想調整会議の中に、直接関係者が議論できる場をつくり、その意見を反映する仕組みを作っていただくことを強く要望します。



資料①

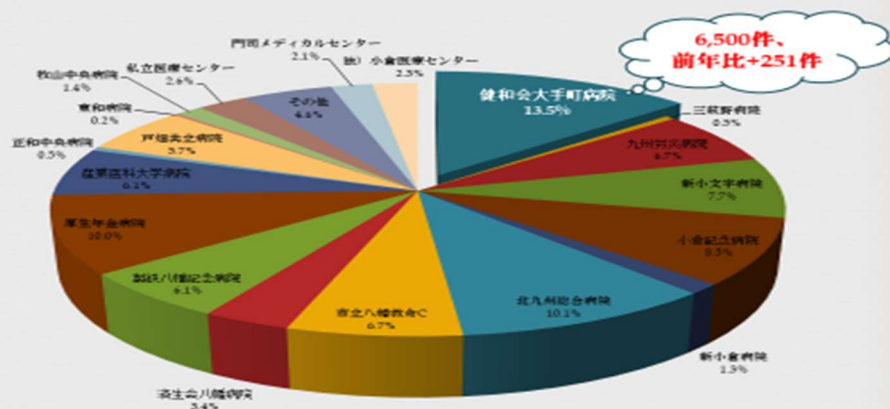
北九州医療圏におけるDPC対象病院の診療実績  
 (平成26年度厚生労働省データ:MDC別救急搬送患者)



救急車の受け入れ状況

【救急車受入状況】	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
北九州全体の搬送件数	47,258	45,483	45,821	46,501	48,212
大手町病院への搬送件数	5,969	6,299	5,990	6,249	6,500
市内救急搬入率	12.6%	13.8%	13.1%	13.4%	13.5%
市外等救急車受入件数	57	78	60	71	48
健和救急搬入件数	197	263	289	265	307
救急車受入件数合計	6,223	6,640	6,339	6,585	6,855

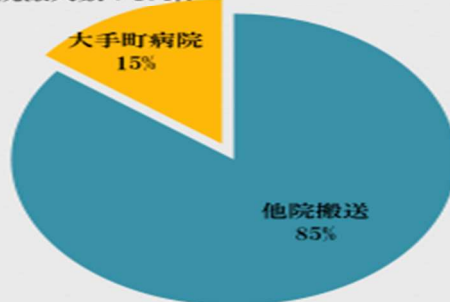
## 2016年度救急車搬入状況（救急告示病院）



IMA Consultants Inc.

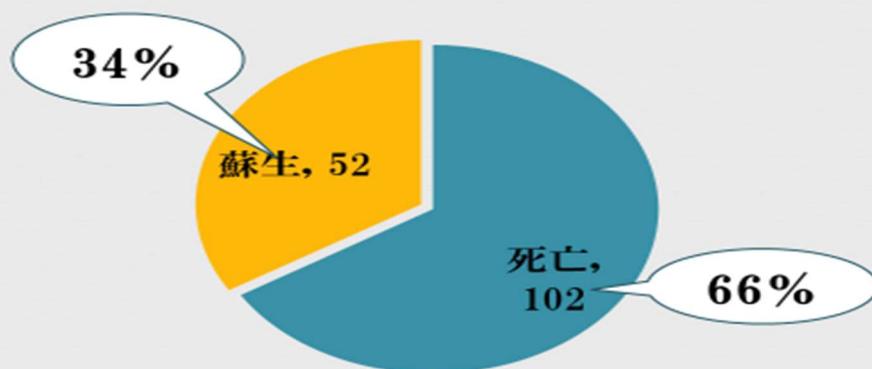
## CPA状況

北九州市におけるCPA数：900件  
うち 大手町病院搬入数：154件



IMA Consultants Inc.

## 蘇生率



蘇生：心拍が再開し、入院になった者をいう

IMA Consultants Inc.